

# 小学校だより

2019年  
2学期号  
2019.12.23

Vol.  
143

INTERVIEW

校長先生が  
織田祥啓先生へ  
質問してみました

## 梶小の書写教育

校長 森 和久



▲書写指導 織田 祥啓先生

一年生から毛筆による書写指導を実施していることは、本校の特色の一つです。通常三年生から実施する毛筆指導を一年生に指導していただいている織田祥啓先生にインタビューしました。

Q どうして書写の先生になられたのですか。

織田先生  
「書」は子どもの頃から好きでした。公立中学で国語の教師を定年まで勤めたのですが、その際「名古屋書写研究会」に所属し、様々な研究に携わった結果、愛知教養大学や本校で書写・書道を教えるに至りました。

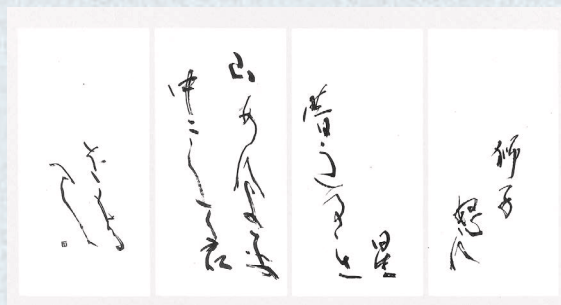


\*

Q 一年生から毛筆で学ぶことの意義を教えてください。

織田先生

毛筆で大きく書くことで、文字の形を正しく理解し、整えて書くことができるようになります。また、毛筆や用具の扱いに慣れることで、文字文化や日本の伝統文化を体感できることも大きいと思います。



▲「獅子怒れ 星暗うなれ 山あれよその中にして君をもるべし」  
平野万理の歌 平成31年1月 東京都美術館で展示作品  
第67回回瀾書展 同人奨励賞 監査員 織田祥啓

とができるよう、始めから字形の特徴などを教えるのではなく、まず子どもが考える場面をつくり、子どもが自分から気付くことを大切にしています。

Q 先生ご自身は現在どのような書に取組んでいらっしゃいますか。

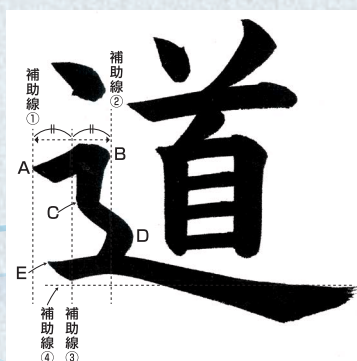
織田先生

毎日書道会(仮名部)会友として、作品制作をし、東海展に展示しています。また、回瀾(かいらん)書道会審査役員として東京都美術館に展示したり、舞鳳(ぶほう)会会員として東京銀座に展示したりしております。ぜひ見に来て下さい。

Q 字を書くことに苦手意識がある人にメッセージをお願いします。

織田先生

文字を「感覚」で書いて、苦手意識を持つてはいませんか? 文字を整えて書くことができれば、見た目の美しさ(斉整美)が得られます。そのためには文字を分析的に見て考える習慣をつけることが必要になります。分析的に見るには補助線を使うことが有効です。そのように論理的思考をもって文字を書くようにすれば、きつと苦手意識は誰でも克服できると思います。



▲補助線の例  
4本の補助線によりABCDEの適切な位置が分かる

特集

## 上級生と下級生

委員会報告

P.4

学期の行事

P.5

学年トピックス

P.6  
P.17

PTA

P.18  
P.19

二学期の思い出

P.20